

久喜市いちょうの木 事業報告

久喜市の定める条例に基づき、関係法令を遵守し、社会福祉法人啓和会の理念と整合性を図りながら、運営規程に定める目的を達成するために以下の事業を実施しました。

1 利用状況と職員体制（平成 30 年 3 月 31 日）

(1) 利用定員の充足

定員 40 名 現員 42 名（男性 28 名、女性 14 名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

| 年齢 | ～19 | 20～24 | 25～29 | 30～39 | 40～49 | 50～59 | 60～ | 平均 |
|----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-------|
| 男性 | 0 | 1 | 1 | 16 | 6 | 3 | 1 | 37.9 |
| 女性 | 0 | 0 | 2 | 6 | 3 | 3 | 0 | 39.1 |
| 計 | 0 | 1 | 3 | 22 | 9 | 6 | 1 | 38.3 |
| % | 0 | 2.4 | 7.1 | 52.4 | 21.4 | 14.3 | 2.4 | 100.0 |

イ 障害程度区分

| 区分 | 区分 3 | 区分 4 | 区分 5 | 区分 6 | 計 | 平均区分 |
|----|------|------|------|------|-------|------|
| 男性 | 0 | 9 | 5 | 14 | 28 | 5.2 |
| 女性 | 1 | 2 | 6 | 5 | 14 | 5.0 |
| 計 | 1 | 11 | 11 | 19 | 42 | 5.1 |
| % | 2.4 | 26.2 | 26.2 | 45.2 | 100.0 | |

ウ 療育手帳及び身体障害者手帳の所持状況

| | 療育手帳 | | | | 計 | 身体障害者手帳 | | | | | 計 |
|----|------|------|-----|-----|-----|---------|-----|-----|-----|-----|------|
| | ㊤ | A | B | C | | 1 級 | 2 級 | 3 級 | 4 級 | 5 級 | |
| 男性 | 21 | 7 | 0 | 0 | 28 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 6 |
| 女性 | 10 | 3 | 1 | 0 | 14 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 5 |
| 計 | 31 | 10 | 1 | 0 | 42 | 6 | 3 | 1 | 1 | 0 | 11 |
| % | 73.8 | 23.8 | 2.4 | 0.0 | 100 | 14.3 | 7.1 | 2.4 | 2.4 | 0.0 | 26.2 |

エ 利用率の状況

| 月別 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|
| 開所日数 | 21 | 21 | 22 | 21 | 22 | 21 | 22 | 21 | 21 | 20 | 19 | 22 | 253 日 |
| 延利用人数 | 813 | 796 | 847 | 802 | 815 | 807 | 834 | 781 | 788 | 723 | 734 | 834 | 9,574 人 |
| 利用率 % | 96.8 | 94.8 | 96.3 | 95.5 | 92.6 | 96.1 | 94.8 | 93.0 | 93.8 | 90.4 | 96.6 | 94.8 | 94.6% |

(3) 職員体制

| 職 種 | 配置人数 | 備 考 |
|-------|------|---------------------|
| 施 設 長 | 1 | サービス管理責任者兼務 |
| 主任支援員 | 2 | |
| 生活支援員 | 14 | 常勤職員 12 名、非常勤職員 2 名 |
| 看 護 師 | 1 | 法人内他事業所兼務 |
| 栄 養 士 | 1 | 法人内他事業所兼務 |
| 事 務 員 | 1 | |
| 運 転 手 | 2 | |
| 計 | 22 | |

2 利用率の向上

昨年度とほぼ同率の利用状況となりました。(平成 28 年度 95%、平成 29 年度 94.6%)
長く入院治療を受けていた利用者が 12 月から徐々に通えるようになりましたが、家庭の事情で久喜市を長期で離れ、通うことが困難になった利用者もいたこともあり、利用率の変動は大きく変わりませんでした。

3 基本事業

(1) 日常生活支援(移動、着脱衣、排泄、食事、歯磨き、清掃の支援介助)

本人の尊厳を尊重することを心掛けながら支援を行いました。

個別支援計画に基づき状態の変化に対応した取り組みに努力しましたが、加齢等による身体機能の低下が顕著に見られる人が多く、とりわけ摂食に関する課題が深刻化する状況にありました。高い専門性を要するため、外部の専門チームに状態を評価してもらい、適切な介助方法と今後の支援の考え方についてアドバイスを頂いて支援の在り方についての参考としました。障害の重度化・重症化による生活の質の低下を防ぐための専門的取り組みが今後の課題です。

(2) 社会生活支援

個人の持つ強みと意思に着目した取り組みの工夫を行いました。

ア 作業活動(資源回収、下請作業、自主生産)

昨年度に比べ若干の収入減になりました。年度途中で内職作業が途切れたことが理由です。
工賃収入実績は、下表の通りです。

| 支給日 | 8月10日 | 12月9日 | H30年4月10日 | 年間合計 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 支 給 額 | 202,880 円 | 264,942 円 | 175,435 円 | 643,257 円 |
| 平均支給額 | 4,830 円 | 6,308 円 | 4,177 円 | 15,315 円 |
| 最高支給額 | 5,248 円 | 7,055 円 | 4,661 円 | 16,964 円 |
| 最低支給額 | 0 円 | 255 円 | 118 円 | 373 円 |

イ 体験活動（創作、サークル、外食、買い物等外出、小旅行）

昨年度から取り組んでいる表現活動において一定の成果が見られました。埼玉県障害者アートネットワーク展では作品が認められ県立近代美術館等で展示されたほか、ダンス活動でも地域サークルに参加し同美術館で披露する機会を頂きました。言語で意思を発信することが苦手な人が作品や身体活動を通して想いのままの表現で意思を発信することのできる取り組みとして今後も継続します。

サークル活動や日帰り旅行等については、下表のとおり計画通り実施しました。

サークル活動

| サークル名 | 活動内容 |
|------------|-------------------------------|
| カラオケサークル | カラオケ店に出掛けて雰囲気と歌を楽しむ |
| 楽器・ダンスサークル | 好きな楽器を使って演奏・ダンス（いちょうの木まつりで発表） |
| つくるんサークル | カレンダー制作・壁画づくり・お菓子づくり |
| 車でGOサークル | ドライブで外出し、公園などで運動 |
| ペダルサークル | 公園などでサイクリング |
| 貼り絵サークル | 貼り絵による作品づくり・いちょうの木まつりで展示 |

日帰り旅行（茨城県自然博物館）

| 月 日 | 利用者 | 職員 | ボランティア |
|------------------|------|-----|--------|
| 平成 29 年 9 月 8 日 | 10 名 | 6 名 | 0 名 |
| 平成 29 年 9 月 22 日 | 10 名 | 4 名 | 3 名 |
| 平成 29 年 9 月 29 日 | 11 名 | 7 名 | 0 名 |
| 平成 29 年 10 月 6 日 | 10 名 | 6 名 | 1 名 |

社会体験外出

| 月 日 | 内容・行き先 | 利用者 | 職員 |
|-------------------|----------------|-----|-----|
| 平成 29 年 7 月 7 日 | 古河ネーブルパーク（BBQ） | 4 名 | 3 名 |
| 平成 29 年 9 月 27 日 | 古河ネーブルパーク（BBQ） | 7 名 | 4 名 |
| 平成 29 年 10 月 3 日 | 古河ネーブルパーク（BBQ） | 5 名 | 3 名 |
| 平成 29 年 10 月 13 日 | 東京スカイツリー（展望台） | 3 名 | 2 名 |
| 平成 29 年 11 月 10 日 | 東京スカイツリー（展望台） | 4 名 | 2 名 |
| 平成 29 年 12 月 8 日 | 東京スカイツリー（水族館） | 4 名 | 3 名 |
| 平成 29 年 12 月 22 日 | 東京スカイツリー（水族館） | 5 名 | 2 名 |
| 平成 30 年 1 月 26 日 | 五霞ヤクルト工場 | 4 名 | 3 名 |
| 平成 30 年 3 月 15 日 | 桶川観光福祉農園（苺狩り） | 3 名 | 2 名 |
| 平成 30 年 3 月 16 日 | 桶川観光福祉農園（苺狩り） | 3 名 | 2 名 |
| 平成 30 年 3 月 28 日 | 菖蒲モラージュ（映画鑑賞） | 1 名 | 1 名 |

ウ 地域交流

以下の取り組みをとおり、地域との交流を深め楽しみました。

- 清久さくらまつり (自主製品販売)
- 人権の集い (作品展示 ※久喜地区、鷲宮地区、菖蒲地区)
- いちょうの木まつり (自主製品販売、模擬店、バザー、ステージ発表等)
- ホットハートフェスティバル (自主製品販売)
- いちょうの木だより (年4回発行)
- 清久コミュニティ協議会 (年4回 ※地区の除草、防災訓練)
- 73区自主防災協議会 (防災訓練、区民まつり)

(3) 余暇活動支援 (季節行事、レクリエーション、誕生祝い等)

ア 季節行事・全体レクリエーション

| 月別 | 内容 |
|-----|--|
| 4月 | |
| 5月 | 全体レク ゲーム (チーム対抗リレーゲーム) |
| 6月 | 全体レク ゲーム (|
| 7月 | 選択レク |
| 8月 | 七夕納涼大会 |
| 9月 | 日帰り旅行 茨城自然博物館 |
| 10月 | いちょうの木まつり |
| 11月 | 全体レク ゲーム (飛んでゆけ 紙飛行機) |
| 12月 | クリスマスコンサート |
| 1月 | 新年会 |
| 2月 | 全体レク 音楽 (バンドに合わせて) 節分 |
| 3月 | ひな祭り いちょうの会 (シンガーソングライターを招いてのコンサート) |

イ 誕生祝い

朝会後に誕生者の紹介と保護者会からのプレゼントの贈呈を行いました。誕生者の誕生日の昼食メニューは、本人の希望のメニューを提供しました。誕生月には、誕生者の希望を聞いて小人数での外出等を企画しました。

(4) 相談援助支援 (利用者、家族との個別相談)

ア 個別面談の実施

個別支援計画における説明と同意のための面談時に、支援の在り方のほか、生活状況での困りごとや今後の不安等について相談を受ける時間を設けました。

イ サービス要望書の協力

2月にサービス要望書を配布し「運営全般に関すること」から「支援全般に関すること」についての聞き取りを行いました。41名のご家族に配布し25名からの回答を頂きました。

要望の傾向としては、「健康管理に関すること」や「ADL の維持、向上に関すること」「建物の改修」への意見・要望が多くありました。また、今年は保護者会の活動に関することへの要望が多くあったのが特徴でした。

ウ 日常の支援の関わり

毎日の関わりから悩みや困りごと、希望などを聞く機会をつくって一緒に解決に向けた話し合いを行いました。

(5) 健康管理支援（日常健康支援、内科・精神科嘱託医訪問、健康診断）

ア 健康診断を年 2 回行いました。所見のあった利用者については、家族と相談し活動の見直しや医療機関との連携を行い必要な医療的支援のサポートを行いました。

イ 内科嘱託医による講話の研修会を行いました。保護者 8 名と職員 3 名が参加し支援の参考としました。

ウ 慢性疾患のある人や虚弱な人については、栄養や水分、排泄等の適切な管理を行って状態の変化を見極めるように行いました。

(6) その他（見学者、実習生、ボランティア受け入れ、職員研修、安全管理）

ア 見学者の受け入れ

| 月 日 | 所 属 | 人 数 |
|-------------------|----------------------|------|
| 平成 29 年 6 月 19 日 | 民生委員・久喜市市役所職員 | 14 名 |
| 平成 29 年 6 月 26 日 | あけぼの園職員 | 3 名 |
| 平成 29 年 8 月 18 日 | 久喜特別支援学校 保護者 | 4 名 |
| 平成 29 年 12 月 11 日 | 埼玉葛北合同説明会 | 9 名 |
| 平成 30 年 2 月 1 日 | 久喜特別支援学校 高等部 1 年生・教員 | 11 名 |
| 計 | | 41 名 |

イ 実習生の受け入れ

| 学校等所属 | 内 容 | 期 間 | 人数 |
|----------|---------|-------------------------------------|------|
| 東萌短期大学 | 保育実習 | 平成 29 年 5 月 15 日～平成 29 年 5 月 30 日 | 2 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 6 月 19 日～平成 29 年 6 月 23 日 | 1 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 6 月 26 日～平成 29 年 6 月 30 日 | 2 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 7 月 3 日～平成 29 年 7 月 7 日 | 2 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 7 月 24 日～平成 29 年 7 月 28 日 | 1 |
| 平成国際大学 | 介護等体験実習 | 平成 29 年 7 月 31 日～平成 29 年 8 月 4 日 | 1 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 9 月 4 日～平成 29 年 9 月 8 日 | 2 |
| 立教大学 | 介護体験実習 | 平成 29 年 9 月 11 日～平成 29 年 9 月 15 日 | 1 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 9 月 19 日～平成 29 年 9 月 22 日 | 2 |
| 久喜看護専門学校 | 看護実習 | 平成 29 年 10 月 10 日～平成 29 年 10 月 13 日 | 1 |
| 計 | | | 15 名 |

ウ 研修生の受け入れ

久喜けいわ 職員

平成 30 年 1 月 31 日～平成 30 年 2 月 2 日 (1 名)

平成 30 年 2 月 20 日～平成 30 年 2 月 23 日 (1 名)

エ 職員研修の実施

<外部研修>

| 研修名 | 主催 | 期日 | 参加者 |
|------------------------|--------------------------|---|-----|
| 新任職員研修 | 埼玉県発達障害福祉協会 | 平成 29 年 6 月 9、23 日 | 入江 |
| 埼玉県相談支援従事者初任者研修 | 埼玉県 | 平成 29 年 6 月 21 日 平成 29 年 7 月 20、21 日 | 吉田 |
| 摂食嚥下リハビリテーション初級者研修 | 埼玉県社会福祉協議会 埼玉県社会福祉事業団 | 平成 29 年 7 月 18 日 | 入江 |
| 強度行動研修 | 埼玉葛北サビ管連絡会 | 平成 29 年 9 月 1 日 | 吉田 |
| 埼玉県サービス管理責任者研修 | 埼玉県 | 平成 29 年 10 月 5 日 平成 30 年 1 月 9、10 日 | 平山 |
| サビ管連絡会勉強会 | 埼玉葛北サビ管連絡会 | 平成 30 年 1 月 6 日 | 吉田 |
| 施設長及び幹部職員研修 | 埼玉県発達障害福祉協会 | 平成 30 年 1 月 30 日 | 中村 |
| 埼玉県災害派遣福祉チームチーム員登録時間研修 | 埼玉県災害福祉支援ネットワーク | 平成 30 年 1 月 24 日 | 野中 |
| 施設見学会 | 埼玉県発達障害福祉協会 | 平成 30 年 2 月 16 日 | 中村 |
| 福祉避難所に係わる避難所訓練 | 久喜市 | 平成 30 年 2 月 27 日 | 小林 |

<内部研修>

| 研修名 | 期日 | 参加者 |
|-------------------------------|--|------|
| 変化とは ～現状維持バイアスを振り切るために～ | 平成 29 年 4 月 25 日 | 常勤職員 |
| 日本の障害者の歴史を知ること | 平成 29 年 5 月 11 日 | 常勤職員 |
| バイステックの 7 原則 ～対人援助技術の行動規範～ | 平成 29 年 5 月 24 日 | 常勤職員 |
| 人材育成を考える | 平成 29 年 7 月 5 日 | 常勤職員 |
| グレーゾーンを考える | 平成 29 年 9 月 19 日 平成 29 年 12 月 7 日 平成 30 年 2 月 21 日 | 全職員 |
| モニタリング作成時、評価の留意点 | 平成 29 年 8 月 23 日 | 常勤職員 |
| どんな人材が求められるか？ | 平成 29 年 9 月 21 日 | 常勤職員 |
| 自信の獲得について ～メンタルコントロール～ | 平成 29 年 10 月 25 日 | 常勤職員 |
| 成年後見制度について | 平成 30 年 1 月 25 日 | 常勤職員 |
| 摂食嚥下研修 | 平成 30 年 2 月 5 日 | 常勤職員 |

(7) 安全管理

避難訓練を 3 回実施しました。消火訓練には利用者も参加してもらい、防災に対する意識の深化と消火方法について学びました。

平成 29 年 8 月 9 日 竜巻災害想定 (通報訓練・避難訓練)
 平成 29 年 12 月 5 日 火災災害想定 (総合訓練 ※消防署立ち会い)
 平成 30 年 3 月 20 日 地震災害想定 (総合訓練 ※消防署立ち会い)

4 自主事業

(1) 送迎サービスの実施

公用車 3 台、5 ルートで対応しました。利用された人は 31 名です。生活の変化により送迎を必要とする人が増えてきています。引き続き、要望に対応するための工夫が求められています。

(2) 土曜開所

利用の実績状況については下表の通りです。

| 月別 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 利用人数 | 27 | 25 | なし | 26 | なし | 29 | 41 | 23 | 26 | 27 | なし | 25 | 249 |

(3) 久喜市日中一時支援事業

他法人とのサービスの併用 (就労継続支援 B 型事業所) の取り組みを支援センター、久喜市障がい者支援課と連携をして取り組みました。慣れない環境もあって本人の混乱も少なからず見られましたが、サービス等利用計画書を軸に話し合いを行い共通の認識のもと支援を進めました。まだ、安定した利用にはつながりませんが多様なサービスの組み合わせによって本人の能力の可能性が広がる支援を継続していきます。

利用実績については下表の通りです。

| 月別 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| 利用人数 | 4 | 5 | 4 | 3 | 4 | 5 | 3 | 6 | 6 | 6 | 3 | 3 | 52 |

(4) 夏季期間中の開所

夏季期間中の利用実績。 8 月 15 日 (火) 30 名 8 月 16 日 (水) 30 名

(5) 時間延長受け入れ

送迎時間の変更により 16:30 頃まで利用される人が増えてきています。16:30 以降の時間延長利用者は 4 名でした。

(6) 歯科検診・ブラッシング指導

11 月 30 日にのぞみ園と合同で実施しました。検診を受けた利用者は 21 名、同席された保護者は 8 名でした。口腔衛生状況については、家族に報告し状態把握の共有化と支援の在り方について検討しました。

(7) 作業療法士訪問指導

7 月と 1 月に訪問してもらい、個別による身体機能の評価や適切で効果的なアプローチの在り方について相談し、アドバイスを頂いて毎日の支援に取り入れました。全般的に機能の低下

が見られ始めているとの評価で、今後の生活環境も含めた家族との話し合いの必要性を勧められました。

【今後の課題】

(1) 障害の重度化・重症化への対応

加齢による障害の重度化・重症化が顕著になってきました。高い専門性と同時に人手不足が課題となってきています。高い介助スキルの獲得と専門的知識の習得、障害特性に合った環境設定について学び実践していく総合的な支援力が求められています。

(2) 親亡き後の生活の準備

親の高齢化等により急な生活の変化に対応しなければならない家庭が増えてきています。短期入所による受け入れも困難な状況があり遠方の施設を利用するなどして対応しています。とりわけ、支援の困難な人や介護度の高い人の受け入れ先は少なく、急な用事が発生した時だけに限らず、日頃からの利用も難しいのが現状です。このことを踏まえ、親が元気なうちに安心できる施設の選択や本人の意思確認、成年後見制度等の制度活用の準備について相談していくことが必要となっています。

(3) 活動体制の見直し

- ア 開所時間による利用請求額から個人の利用時間による利用請求額に変更になるため、送迎時間の見直しを検討する必要があります。
- イ 送迎に伴い、利用者の登降時間の幅が広がっています。活動の安定さを確保するために日課全般の再考を行っていきます。
- ウ 活動班の編成による職員の負担の偏りが出てきています。同時に支援の質そのものにも影響があるため、利用者の身体面、能力面、意思確認の再アセスメントをして活動編成に取り組みます。